

## 第4学年道徳指導案

平成17年10月28日(金) 2校時

4年1組(男15名 女16名 計31名)

指導者 山田 真貴子

1 主題名 人の気持ちを考える (2-(2)思いやり・親切)

2 資料名 温かいことば(出典 学研)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年及び第4学年の内容項目2-(2)は「相手のことを思いやり、親切にする」となっている。他の人に接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心もち実践のできる児童を育てようとするものである。これは、第1学年及び第2学年の内容項目2-(2)「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする」を受けたものであり、第5学年及び第6学年の内容項目2-(2)「だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする」に発展していく。

思いやりとは、他人の喜び、悲しみ、痛み、立場などを推察し、その気持ちが理解できるということであり、単なる憐れみや相手にやさしく接することだけを指すのではない。相手の状況をつかみとり、共感し、自分と一体となって考えようとする気持ちを育てることが、思いやりの第一歩である。この思いやりに根ざした実践、自覚的行為が、他者に対する親切である。社会生活の中で、みんなが自己中心的な考え方や気持ちでくらしが、生活は成り立たない。相手を思いやり、親切にしようとする気持ちをもつことが、社会生活の基本である。しかし、実際の生活場面において、相互の心の交流や共感に支えられた人間関係が育っていなかったり、相手が広い心を備えていなかったりすると、親切のつもりでしたことがおせっかみになってしまったり、思いやりの行為が逆に、迷惑と感じられてしまったりすることも見受けられる。思いやりが思いやりとし、親切が親切として成立するためには、その感情や行為が相手に支持され、受容されなければならない。そのためには、どのように対処することが相手のためになるのかをよく考えた親切な言動が求められる。

この期の児童は、徐々に相手の立場に立って物事を考え、相手の気持ちを理解できるようになる。そこで、この段階において、相手に対する思いやりの心を育て、親切にするという行為も相手のことを考えたものになるよう指導していくことが必要である。そして、進んで親切にしようとする気持ちを育てていくことが大切であると考える。

(2) 児童について

学級の児童は、友達が困っていると進んで手助けしたり励ましたりするなど友達に対して親切にしようとする気持ちをもっている。また、友遊タイムのときには、仲良し学年の2年生が楽しく遊べるように一生懸命声をかけるなどして接している。しかし、一方では、「友達だから」とか「してあげる」というような利害関係や優越感から出る親切な行為も見られ、自己中心的な行いだったり、相手の立場や気持ちを十分考えていなかったりすることもある。また、見知らぬ人や年上の人に対しては、恥ずかしさや勇気のなさが先に立ち、親切な行為に至らないことが多い。

そこで、このような児童に、相手のことをよく考えて進んで親切にすることの大切さを理解させたい。そして、実践意欲を喚起していきたい。

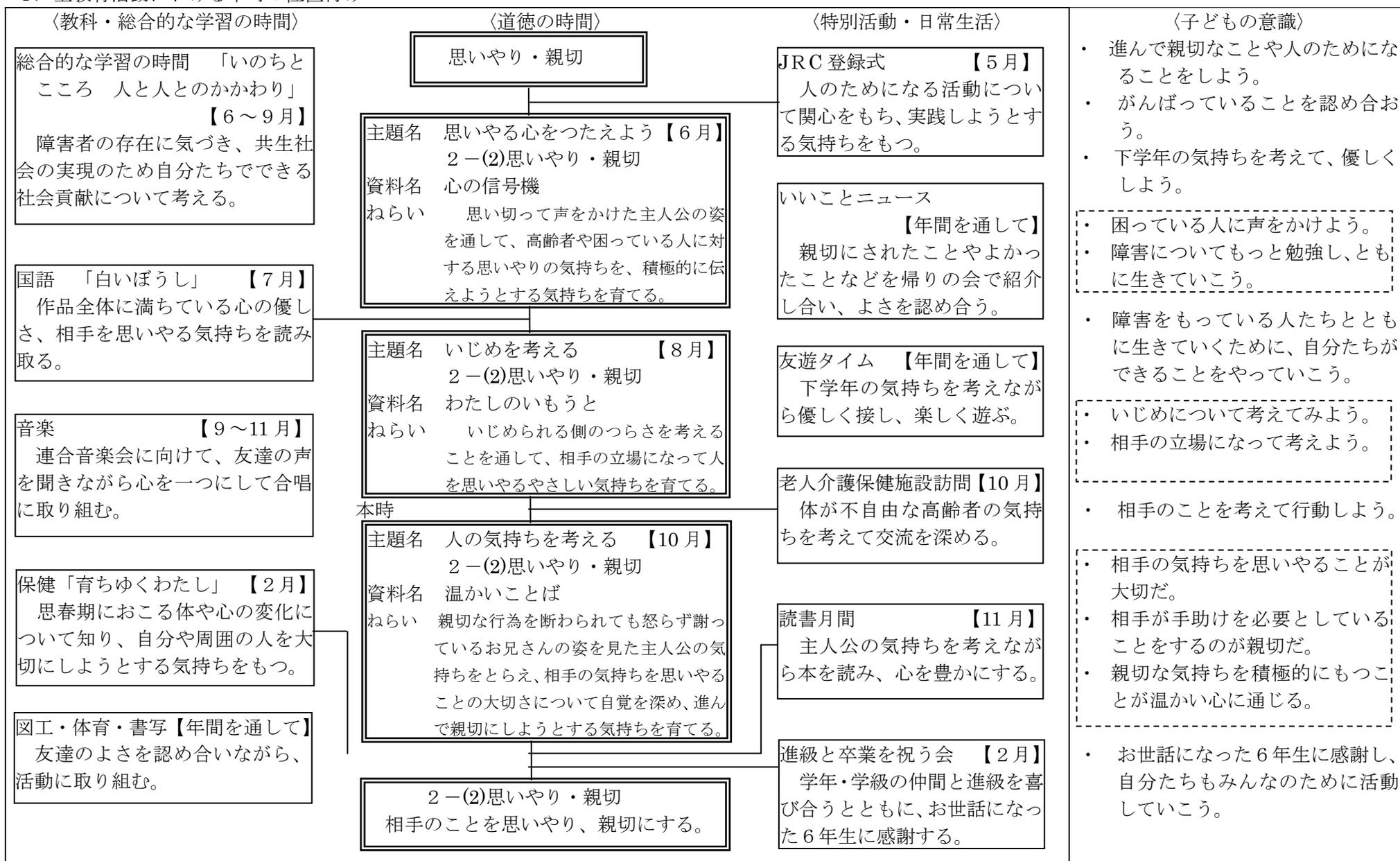
(3) 資料について

ギプスをした男の子に親切に声をかけたお兄さんが、反発を受けても怒らず、思いやりをもち続け、二人は温かい言葉を交わす。これを見ていた「ぼく」は、強く心を動かされるという話である。自分の親切な心が踏みにじられたと思わず、男の子の気持ちを大事にしている「お兄さん」、そのやさしさに気づいた「男の子」、その二人を見てお兄さんのような親切な人になりたいと思う「ぼく」の三人の気持ちを考えることによって、相手の気持ちを思いやることの大切さに気づかせ、進んで親切にしていこうとする気持ちを育てるのに適した資料である。

(4) 授業の構想について

本時は、体験活動を生かすことにより、価値の自覚をより一層深め、自分がこれまで行ってきたことの中に価値を見いださせたいと考えた。そこで、体験活動として、総合的な学習の時間「いのちとこころ 人と人とのかわり」の中に、老人介護保健施設の訪問を意図的に位置付け、高齢者が望んでいることは何か考えさせて活動を行わせ、交流を深めた。この体験活動を「気づく」段階で想起させ、価値への方向付けを図りたい。また、「深める」段階で、足にギプスをはめた男の子を見たときの「ぼく」の気持ちに共感させるために、老人介護保健施設を訪問したときの気持ちを思い起こさせる発問を行いたい。「見つめる」段階では、今まで相手の気持ちをよく考えて親切にしてきたか、その気持ちが相手に通じていたかを体験活動も含めて振り返らせ、今までの自分の行いに価値を見いだしたり、これからの自分の在り方を考えたりするようにさせたい。

4. 全教育活動における本時の位置付け



5 本時の指導

(1) ねらい 親切な行為を断わられても怒らず謝っているお兄さんの姿を見た主人公の気持ちをとらえ、相手の気持ちを思いやることの大切さについて自覚を深め、進んで親切にしようとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
気 づ く  10分	<p>1 老人介護保健施設を訪問したときの活動について発表する。</p> <p>○アルテンハイムで、手足が不自由なお年寄りのためにどんな活動をしたか発表しましょう。</p> <p>2 資料を読んで感想を発表し、課題を立てる。</p> <p>○感想やみんなで考えたいことを発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肩をもんであげた。</li> <li>・家や学校のことなどを話した。</li> <li>・あやとりやお手玉で遊んだ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子は、怒るなんてひどい。</li> <li>・お兄さんはやさしい。</li> <li>・二人の最後の会話を聞いて、ぼくはびっくりしたと思う。このときのぼくの気持ちをくわしく考えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人介護保健施設を訪問し、高齢者が喜ぶようにいろいろ考えて活動したことを、写真などを提示して想起させ、価値への方向付けを図る。</li> <li>・児童の感想をもとに、ぼくの気持ちの変化に着目させ、課題を立てる。</li> </ul>
	<p>お兄さんが謝り、男の子が「ありがとう」と言ったのを見て、ぼくは、どんなことを考えたでしょう。</p>		
深 め る  25分	<p>3 「ぼく」の気持ちの変化を中心に話し合う。</p> <p>○足にギプスをはめた男の子を見て、ぼくはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>○お兄さんが声をかけたのを見て、ぼくはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>○男の子が「やめろ」と言ったのを聞いて、ぼくはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>○お兄さんが謝り、男の子が「ありがとう」と言ったのを見て、ぼくは、どんなことを考えたでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギプスをはめたままで大変そうだ。</li> <li>・一人きりでかわいそうだ。</li> <li>・手を貸してあげようかな。でも、何と言ったらよいだろう。断わられるかもしれない。それに、知らない子だから、恥ずかしい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お兄さんは、やさしくて親切な人だ。</li> <li>・自分はどうして手を貸してあげられなかったのだろう。</li> <li>・思い切って声をかける勇気が足りなかった。手伝ってあげればよかった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親切に声をかけたのにひどい。</li> <li>・男の子は礼儀知らずだ。</li> <li>・男の子はどうして怒ったのだろう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お兄さんは、せっかくの親切を断わった男の子を怒らないで、その子の気持ちに気づかず傷つけてしまったことを謝っている。すごい。</li> <li>・男の子もお兄さんのやさしい気持ちが分かってよかった。</li> <li>・ぼくもお兄さんのように相手の気持ちをよく考えよう。そして、進んで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人介護保健施設を訪問したときに、手足が不自由な高齢者を元気付けたいと思っているのに、初めは恥ずかしくてなかなか話をすることができなかったことなどを思い起こさせながら、苦しそうに階段をのぼる男の子に手を貸したいと思いつながら、恥ずかしさのためそれができない「ぼく」の気持ちに共感させたい。</li> <li>・ぼくが、自分の勇気のなさを反省していることを押さえたい。</li> <li>・男の子が「やめろ」と言った理由も考えさせ、お兄さんに哀れみをもたられたと思い、反発する男の子の気持ちに気づかせたい。</li> <li>・お兄さんは、どんな気持ちで謝ったのかを考えさせ、男の子の気持ちを大事にしているお兄さんのやさしい心に注目させたい。また、男の子がお兄さんのやさしい気持ちに気づいたことをつかませたい。そして、二人がお互いの気持ちを知り、温かい言葉を交わす姿を見たぼく</li> </ul>

		親切にしよう。	の気持ちを通して、相手の気持ちを思いやることの大切さを理解させ、ねらいに迫りたい。
見 つ め る  8分	4 今までの自分を振り返る。 ○相手の気持ちをよく考えて親切にし、相手にもその気持ちが通じたことがありますか。また、残念ながら通じなかったことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が物をなくして困っていたので、いっしょに探してみつけた。友達はとても喜んでいました。</li> <li>・アルテンハイムを訪問したとき、お年寄りが寂しがっていると思っていろいろな話をしたら、嬉しそうに聞いていた。</li> <li>・友達が困っていると思って教科書を見せてあげようとしたが、断われたことがあった。恥ずかしかったのかもしれない。これからも進んで親切にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで親切にした体験や老人介護保健施設での体験などが、相手の気持ちをよく考えたものだったか、それが相手に通じていたかを振り返らせ、心のノートに書かせてから話させたい。</li> <li>・相手の気持ちを思いやり、親切にすることが大事であり、たとえ親切な気持ちが通じなくても、相手を思いやり積極的に親切にしようとする気持ちをもたせたい。</li> </ul>
ま と め る  2分	5 まとめをする。 ○心のノートの40・41ページを読んでみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりの心を育てていく秘訣や親切はみんなの喜びであることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まわりの人の心を感じ取れるようになることによって思いやりの心が育ち、その心を行動に移すことによりまわりの人も自分も喜びを感じることを知らせ、意欲付けを図りたい。</li> </ul>

## 6 板書計画

7 資料分析

(1) ねらい 親切な行為を断わられても怒らず謝っているお兄さんの姿を見た主人公の気持ちをとらえ、相手の気持ちを思いやることの大切さについて自覚を深め、進んで親切にしようとする気持ちを育てる。

(2) 資料名 温かいことば (出典 学研)

主な場面	足にギプスをはめた男の子が階段をゆっくりと上がっているのを見ている場面	男の子が階段を五、六段上がったとき、若い男の人が声をかけるのを見た場面	男の子が「やめろ！」と言ったのを見た場面	若い男の人が謝り、男の子が「ありがとう」と言ったのを見た場面
把握すべき状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>男の子は七、八才くらいで足にギプス。</li> <li>重そうなその足で、階段をゆっくり。</li> <li>額には玉のような汗。</li> <li>足を苦しそうに。 ・一人きりで。</li> <li>男の子を哀れっぽい目で見ただけ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人の若い男の人が、声をかけた。「手伝ってあげようか？」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やめろ！ぼくは一人でのぼれるぞ！」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お兄さんのやさしい声。「ごめんよ。ぼうや、がんばれ。」</li> <li>男の子は、ほほえみながら「ありがとう、おにいちゃん。」</li> </ul>
主人公の心の動き	<p>思いやり・親切 同情 哀れみ 怒り 恥ずかしさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手を貸してあげようかと思いましたが、恥ずかしくて言い出せないまま。</li> <li>その人たちの目が、冷たいビー玉のように見えました。</li> </ul>	<p>思いやり・親切 反省 後悔</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おにいさんの目が、ビー玉ではなく、温かい人間の目に見えました。</li> <li>どうしてあのとき、手をさしのべられなかったのか。</li> </ul>	<p>疑問 怒り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>せっかくおにいさんが、親切に声をかけたのに。</li> <li>腹が立ちました。</li> </ul>	<p>思いやり・親切 尊敬 安堵感</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今の時代に信じられないような会話でした。</li> <li>温かい言葉は、ぼくの胸の奥までしみ込み、ぼくの心を動かしました。</li> <li>あのお兄さんのような人になりたい。</li> </ul>
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>手を貸してあげようかな。</li> <li>ギプスをはめたままで大変そうだ。</li> <li>一人きりでかわいそうだ。</li> <li>側を通る人たちは助けようともせず、冷たい。</li> <li>知らない子だから、手を貸すのは恥ずかしい。それに、何と言ったらよいだろう。断わられるかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お兄さんは、やさしくて親切な人だ。</li> <li>自分はどうして手を貸してあげられなかったのだろう。</li> <li>思い切って声をかける勇気がなかった。手伝ってあげればよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>男の子は どうして怒ったのだろう。</li> <li>親切に声をかけたのにひどい。</li> <li>男の子は礼儀知らずだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぼくも、お兄さんのように相手の気持ちをよく考えて、進んで親切にしよう。</li> <li>お兄さんは、せっかくの親切を断わった男の子を怒らないで、その子の気持ちに気づかず傷つけてしまったことを謝っている。すごい。</li> <li>男の子もお兄さんの温かい気持ちが分かってよかった。</li> </ul>
発問 基本	○足にギプスをはめた男の子を見て、ぼくはどんなことを思ったでしょう。	○お兄さんが声をかけたのを見て、ぼくはどんなことを思ったでしょう。	○男の子が「やめろ」と言ったのを聞いてぼくはどんなことを思ったでしょう	◎お兄さんが謝り、男の子が「ありがとう」と言ったのを見て、ぼくは、どんなことを考えたでしょう。